

ベトナム肉桂の生産・流通の社会史： グローバル商品化と生産地社会

岡田 雅志 氏(大阪大学文学研究科)



要旨：

香辛料の一種として知られるクスノキ科植物の樹皮である肉桂(シナモン)は、他方で生薬原料として古来より珍重されてきた。その品質は土壌及び気候に大きく左右されるが、本発表で取り上げるインドシナ脊梁山地に産するベトナム肉桂は、薬用成分を豊富に含むことにより、現在に至るまで生薬市場において高い評価を獲得し、重要な国際商品の一つでありつづけてきた。近世期の東アジアの生薬市場においては、日本を中心に大量の肉桂需要が存在し、19世紀半ば以降になると、精油として欧米市場での需要が生まれ、まさにグローバル商品となってゆく。一方、ベトナム肉桂の産地は、非キン族の居住空間であったが、国際取引における肉桂の需要増大に伴い、経済資源としての有用性を認識したベトナム国家は肉桂の生産・流通への関与を強めていくことになる。

本発表では、こうした肉桂をめぐる国際交易商品としての位置づけや国家の政策の変化が、肉桂を産出する地域社会にどのような影響を与え、また地域社会がどのように対応していったかについて、自然環境との関わりにも留意しながら考察してみたい。

日時：**2014年4月18日(金)17時～**
場所：京都大学

稲盛財団記念館 中会議室(3F)

参加費・事前登録は不要です。
皆様、奮ってご参加下さい。
また、会后には懇親会を予定しております。

〒606-8501
京都市左京区吉田下阿達町46

[アクセス・交通機関]

- 最寄り駅：京阪電鉄『神宮丸太町駅』下車。
川端通を北へ徒歩約5分。
- 市営バス：京都市営バス：205系統か4系統『荒神口』下車。バス停より徒歩約5分。
- 京都バス：17系統『荒神橋(こうじんばし)』下車。
バス停から道路を渡ってすぐ。



HERE !



＜お問い合わせ先＞

廣瀬：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
hirose@asafas.kyoto-u.ac.jp

柳澤：京都大学地域研究統合情報センター
masa@cias.kyoto-u.ac.jp